













---

及によって、異分野（例えば、材料系研究者から計測系研究者）への理解を深める機会が減少する懸念がある。一方で、リモート実験等の増加により、実験効率の向上も期待できるので、余裕ができた部分をオンサイトの教育に使う、あるいはオンライン環境を利用した教育に利用するなど、施設のみならず、企業、大学ともに検討していくことが望ましい。学会としての呼びかけ、発信を進めたい。また、学生や若手が代行測定や遠隔測定のアシスタントとして参加し、オンザジョブトレーニングすることも考えられる。

6. その他：リモート実験等の進展に伴い、従来は想定していなかった放射線従事者登録をどうするのか、ユーザー来所登録をどうするのか各施設や放射光学会で議論を進める必要がある。また、外国のユーザーを相手にする場合、輸出入安全に絡んで、該否判定をどうするのか、などの問題点も挙げられた。安全性、社会に対するコンプライアンスを確保しつつ、来所しないユーザーに対する放射線登録の手続きの簡便化、免除など各施設での検討を望みたい。また、来所しないユーザーをいかに各施設の利用者としてカウントするかも考える必要がある。